

伝統の三頭獅子

みつがしらじし



祇園祭で獅子舞を披露してくれたスタッフの皆さん

小学生男女が舞うささら踊り
中間祭で復活します

前山の獅子は、上田市の無形文化財に指定されています。獅子は、雄獅子二頭と雌獅子一頭の三頭獅子です。

古くは、元禄十七年（一七〇四）の塩野池築造の地固めの際、踊られたという記録が残っています。

この獅子舞は、甲子大祭の際、奉納されるものです。年に一度の祇園祭（七月）でも奉納されてきました。

しかし、途切れては復活することを繰り返ししてきました。昭和四十年（塩田町合併十周年）にいったん復活したあと、途切れ、前回の甲子大祭（昭和五十九年）を前に保存会ができて若者達により復活し、現在に至っています。

上の写真は、今年の祇園祭での奉納のときの出演者の皆さんです。保存会の皆さんは、伝統を守るため、一生懸命努力して、練習を続けています。



獅子舞の舞い手の方にインタビュー

雌獅子を舞われた大庭重春さん（六三）に聞いてみました。

問、この獅子舞は、どのように伝承されてきたのですか？

前回の甲子大祭（昭和五十九年）の三年前から何とか「獅子舞を復活」させようと一から教わって練習した。何もないところからの出発だったから苦労した。お師匠さんは、横内さんだった。

問、前回から三十年、どのように経過したのか？

大祭の前は、週二〜三回は練習した。その当時は、公民館の和室がいっぱいになるくらいの方が練習に参加していた。大祭の後には、次第に参加者が少なくなり、途中で四〜五年途切れたこともあり、今は十五人くらいで練習している。

問、三頭で舞う時の合わせ方って難しくないですか？

笛と太鼓のリズムを聞き、隣りの動きを見てやっていく。

問、中間祭に向けて、また将来に向かって感じていくことは？
やっぱり若い人に入ってきてほしいですね。

去る七月七日、日曜日
に塩野神社の祇園祭があり、この「三頭獅子」が奉納されました。お獅子の皆さん（笛三名・太鼓二名）の曲にのって烏天狗・先獅子・雌獅子・後獅子が登場します。

舞いは、一番の曲から七番の曲の間で行われます。中でも六番での三頭の獅子による闘争の場面が一番の見どころです。一頭の雌獅子をめぐって争う一頭の雄獅子、迫力ある舞いは、見る者を感動させました。